

「在宅福祉ネット関係者と議員とのカフェ・ド・ギカイ」の参加者意見

◆テーマ1：在宅福祉の現状

◆テーマ2：今後の課題

| 要点 | 参加者意見 |
|--|---|
| 人材不足 人材配置 離職者 訪問介護崩壊の危機 | 福祉分野全体として人材不足が問題となっている。特に高齢者介護の分野では、人材不足が著しい。 |
| | 現在の「ある程度元気な高齢者」も使えるサービスでは、介護員不足が進む一方となる。 |
| | ヘルパーは誰でも務まるようなものではなく、限られた人材を多くの事業所が求めている。 |
| | 募集しても応募がなく、単なる待遇面だけでの問題ではないのかもしれない。 |
| | 今後、役場を含めた多職種での連携を進め、より手厚い人材配置をしていく必要がある。 |
| | 介護員の平均年齢が上がっている中、40代の離職者が増えており、従業員の年齢も上がっている。 |
| | 時間的にも精神・体力的にも介護する側の負担が大きく、辞めてしまう傾向にあるのが現状で、将来の見通しが立たない。 |
| | 訪問介護は、崩壊の危機となっており、人材不足を補うための人材確保が必要だ。 |
| 在宅ケアニーズが一層増えてくると予想される中、訪問事業所の閉鎖が多発している。 原因としては、①介護報酬の10～15%減。 ②事業が不安定であり、収支が見通せない。 ③ケアスタッフ不足 ④現スタッフの高齢化による稼働時間が減少。 ⑤軽度者への対応は、住民同士で支え合う体制づくり。 (要支援1,2の方へのサービス内容で、「相談相手として話を聞いてほしい。」などのニーズが多くなってきており、要介護の方への対応と合わせると、介護職員の負担が大きくなっている。介護職員不足を補い、要介護の方へサービスを安定的に提供するためにも、地域での新たな取り組み(資源)として要支援1,2の方への相談相手などのサポートができるとうい。) | |

| 要点 | 参加者意見 |
|---------------------------------|--|
| 地域生活支援拠点の整備 | <p>【障害福祉分野の立場から】</p> <p>町内の現状として、障がいがある方の人口比率は約6.5%だが、精神障がいのある方の比率は他市町と比較しても多く、町内に500人弱の方がいる。</p> <p>今後の地域福祉の要である基幹相談支援センターの委託が兼務職員で運営されており常勤専従がないことや、地域生活拠点が整備されていない現状である。</p> <p>そのことから他市町と比べ支援の幅が狭くなっている。</p> |
| サービスの多様化に対応できる環境整備 | <p>「母子で特養ホームに入れないうか」という問い合わせが数件あり、これからもこのようなニーズは、増えていくと予想される。サービスの多様化が求められている今、受け入れる施設側の環境整備が迫られている。</p> |
| | <p>仕事で精神を患ってしまい、障害者手帳を持っていない場合は、生活が苦しくなっている現状である。</p> <p>一人ひとりの多様な課題に対応できるようなシステムがあっても良いと思う。</p> |
| | <p>複合的な問題を抱えた人に対応できるような柔軟なサービスの展開が必要だ。</p> |
| | <p>自治会の加入率が低くなっているため、地域と課題を持っている方との接点が少なくなっている。</p> <p>地域全体で支援していく必要があるのではないか。</p> |
| | <p>介護事業継続を担保できる地域マネジメント機能の強化。</p> |
| | <p>軽度者への地域住民の関わり方と生活支援体制の早期確立。</p> |
| | <p>一人暮らし家庭に対する地域での見守り体制。</p> |
| | <p>高齢や障害といった分野を越えた共生型サービスの創造が課題の一つである。</p> |
| <p>人と人を繋ぐ共生型居場所の開所支援が必要である。</p> | |

| 要点 | 参加者意見 |
|---------------------|--|
| 災害時の体制強化 | <p>災害時の福祉避難所の体制がしっかりとれているかの問題が挙げられる。</p> <p>例えば、予算がどの位つけてもらえているかどうかなど、具体的に考えていく必要がある。</p> <p>予算がしっかり付くことによって、避難所の不足している布団などの問題が解消する。</p> <p>また、実際どう運用していくかなどのシステムの具体的な対応なども今後の体制として考えていく必要がある。</p> |
| 熱中症防止対策 | <p>熱中症も深刻な問題だが、毎年、暑い夏が必ずやって来るため、温度計・湿度計を対象者へ配布する。</p> <p>また、熱中症対策の予算を付けてもらう。</p> |
| 行政内の連携を | <p>障害福祉分野の立場から町内の福祉全体を考えていくうえで、分野ごと（障がい・高齢）に各種会議が行われているが、方向性や目標は一緒の場合が多い。また、委員も重複している。</p> <p>今後の人口減少や町の規模を考慮すると、各種会議の在り方を見直し、現在の会議に看板を2枚かけるなど、効率の良いネットワーク化、意思疎通の実務化を図り、建設的な議論ができるよう、障がい分野や高齢分野の行政内の連携が重要と考える。</p> |
| 自己完結型のコンパクトシティに | <p>在宅福祉ネットのコンセプトは、自己完結型のコンパクトシティである。本町の東部と西部では、人口密度や店舗・施設数の違いがある。</p> <p>施設をどこに置けばよいかのバランスをこれから検討していく必要がある。</p> |
| 地域の実情を国へ届けることが議員の役割 | <p>地域の実情を国へ届けることと、現場の声を届けるのが議員の役割。</p> |